



➡ 姉妹校ミチュホル外国語高等学校生徒との交流 ～今年も充実したものになりました！～

① 日比谷高校に到着！

今年で2回目となる韓国姉妹校交流が行われました。10月13日(土)から16日(火)にかけて、本校姉妹校である韓国のミチュホル外国語高等学校生徒10名が来日し、日比谷高校で交流を行いました。13日午前中に羽田空港に降り立ち、混雑した京急線、東京メトロ地下鉄をキャリーバッグを引きながら乗り継ぎ、赤坂見附駅に到着しました。初めての「遅刻坂」に驚きながらも、初めて見る日比谷高校の校舎を見て歓声が上がりました。学校には、グローバル委員会の生徒や、バスケットボール部の部活動で来ていた生徒、スペイン語の授業の生徒や、休日にかけてくれた生徒が待っており、韓国の生徒たちも感激していました。ホストファミリーとして受け入れをしてくださった方々をはじめ、たくさんの方々の協力によって、大変有意義なものとなりました。

② 歓迎レセプション

10月15日(月)には、本校内会議室において、韓国の姉妹校ミチュホル外国語高等学校の生徒たちを歓迎するレセプションが行われました。今回で2回目となる姉妹校生徒の訪問は、昨年引き続き、本校生徒にとっても大変楽しみなものでありました。韓国からは、10名の生徒と2名の先生がいらっしゃいました。歓迎レセプションは、グローバル委員会が主体となって企画されました。司会進行は、昨年の韓国派遣生徒である生徒がつとめてくれました。1人が日本語、1人がハングルで通訳するという形式で進められ、見事な進行でした。

生徒代表挨拶は、第4代グローバル委員長、そして昨年の韓国派遣生が行いました。心を込めて、ハングルで歓迎のあいさつをしたことがとても印象的でした。今回のレセプションでは、今年の3月に訪韓した本校の生徒たちが、韓国の生徒たちに歌のプレゼントをしました。これは、3月に訪韓した際に、前年に日比谷高校を訪れた韓国の生徒たちがレセプションで歌を披露してくれたことが、とても感動的だったことがあると思います。韓国の生徒たちは、自己紹介の時に全員が日本語にチャレンジしていました。普段の向学心が伺えます。

校長先生からは、「この姉妹校交流は素晴らしいものとなっており、未永くこの関係が続き、両国の友好関係が続くことを祈ります」、とのお話がありました。

ミチュホル外国語高等学校の教頭先生からは、「世界にはさまざまな紛争が絶えないけれども、今こそ隣国である韓国と日本がこのような交流から信頼関係を築くことで、世界に良い影響を与えるはずだ」、という感動的なお話をいただきました。

韓国生徒代表生徒からは、「この日比谷高校との交流での経験をもとに、将来のグローバル・リーダーとして成長していきたいと思います」、との決意を話してもらいました。

そして、昨年引き続き合唱部から歓迎のしるしとして校歌の合唱を披露しました。圧巻のパフォーマンスで感動がいつそう深まりました。最後は互いに談笑したり写真を撮ったりするなど短い時間でしたがとても友好的な雰囲気でのレセプションとなりました。

③ 授業での交流

授業でも、積極的な交流が図られました。例えば現代文の授業では、ある生徒がこれまでの課の内容を英語で要約し、韓国の生徒に伝えた上で、先生からは日本語と朝鮮語の母音の差異などについて講義をいただきました。また、古文の授業では、ドナルド・キーンによる徒然草の第137段の英訳をもとに、韓国の生徒と共に日本語の解釈についてディスカッションするなど、知的で協働的な授業が展開されました。体育では、男子はバレーボール、女子はソフトボールを行い、共に汗をかきながら活動を行いました。女子生徒の1人は、韓国にはソフトボールはあまり広まっておらず初めての経験で、体育が一番楽しかったと話していました。英語の授業では、ミチュホル高校の生徒の英語力の高さが伺えました。本校生徒の英語力も高く、十分にコミュニケーションを取ることができました。2年生の数学では、先生がプリントを用意してくださったので、韓国の生徒たちも取り組むことができました。時折、英語も使って教えてくださったと話していました。書道は前回も大好評だった授業ですが、今回もとても興味深かったようで、写真撮影のために近づいても気がつかないときもあるくらい集中して取り組んでいました。

どの教科をとっても本校の授業レベルが高く、日比谷高校ならではの知的な授業内容で、ミチュホル高校の生徒も楽しく取り組めたことと思います。

④ 昼休みの交流

昼休みには、生徒が自由に交流を行いました。ホストファミリーに作っていただいたお弁当を楽しみながら、本校生徒とさまざまなことについて話をしていました。ミチュホル高の生徒は頑張って日本語を話そうとしていて、伝わらないときは英語を使い、コミュニケーションを図っていました。本校生徒は英語を中心に日本語の意味を英語で説明したりするなどして、やりとりを行なっていました。両国の学校の違いや、互いのサブカルチャーの話など話題は多岐に渡っていました。参加した生徒の1人は、「ミチュホル生の中には、学校で日本語を学び始めてまだ1年半だということにかなり流暢に話すことができていることが驚いた。これだけ英語を長く学んでいる自分たちはもう少しできるはずだ」と話す生徒がいました。互いに刺激を与え合うことができたように思います。

⑤ SSH 活動、部活動での交流

SSH 活動に関わる部、および同好会の方々の尽力により、ミチュホル生たちが SSH 活動の成果を見ることができました。単なる展示ではなく、日比谷生が英語でしっかりと説明をし、時には質問を受けるなどとても丁寧な対応をしていました。専門用語等が多いため、英語でのやりとりは両校生徒にとって難しいものであったと思いますが、それがまた刺激となったかもしれません。ミチュホル生の感想によると、「日比谷高校の SSH 活動は、理科を専門とする韓国の高校のレベルに匹敵する」という印象があったようです。また、引率の先生からも、「ミチュホル外国語高等学校は文科系領域に力を入れているので、本格的な理科系の実験施設などが少なく、日比谷高校の環境はとても素晴らしく思います」との感想がありました。

さらに、本校部活動生徒、顧問の先生方の協力によって部活動の体験が実現しました。体育着や、部活動用のシューズを用意してくるのは韓国生徒にとっても大変だったかもしれませんが、活動後には非常に満足をしていて、日本の高校の部活動の専門性の高さに驚いていました。バドミントン部、弓道部、箏曲部、ESS のみなさん、協力をありがとうございました。

⑥ お別れ会

時間的な制約があるため、大規模なお別れ会を実施することはできませんでしたが、16日の昼休みの時間を活用して行われました。とても短い時間でしたが、両校の生徒同士には固い絆が生まれたようです。いつまでも離れがたい様子であり、感極まる生徒もいて、交流の深さを見てとることができました。互いの連絡先を交換して、将来的に交流をさらに深めようとしている生徒も多く見受けられました。2日間とは思えない、交流の濃密さがあり、両校の生徒の高い知的好奇心によって、実現されたものだと言えるでしょう。

⑦ 校外での活動

本校は永田町にあるため、日本の政治の中核となる機関、施設が多く存在しています。その中でも中心的な存在である国会議事堂を見学しました。日本の国会議事堂は韓国のTVニュースで日本政治を取り上げる際に頻繁に映し出されるもののようで、生徒たちはとても興味深く見学をしました。案内の方の使用言語はもちろん日本語でしたが、日本語のできる生徒が通訳するなどしながら理解を深めていました。衛視の方に案内されながら議事堂を巡り、委員会室や各政党の控え室を見学しながら、ミチュホル生たちは、配布されたハングルのパンフレットを熱心に読んでいました。最後に見学したのは本会議場で、生徒たちは熱心に写真を撮っていました。説明のアナウンスに熱心に耳を傾け、理解できる部分では大きくなずいていたのが印象的でした。

次に、国立劇場を見学しました。実際の演目を観るのではなく、建物の見学と付設の資料館を見学し、日本の古典芸能についての知見を深める機会を得ました。その後は日枝神社を訪れ、おみくじなどを引いて、楽しい時間を過ごしました。絵馬や鳥居などにとっても興味を持ったようでした。

そして交流活動で初めての試みとなる、専門学校での「日本衣装について」のレクチャーを受けました。ヘアメイク・アーティストを目指す学生たちの授業や、着物の着付けの授業を参観させていただき、自分たちの夢の実現を目指す学生たちのバイタリティの強さに刺激を受けました。

講義では、訪問生徒のうちの女子3名が実際に振袖を着ることができました。かなり本格的な着付けをしていただき、体験をした生徒たちは感激したようです。そして「十二単」についての講義を受けました。「十二単」は平安時代中期に完成した女房装束の儀服ですが、成人女性の正装で、宮中などの公の場所で晴れの装いとして着用されたようです。十二単を着られる方は高貴な方なので、着つける方は常に膝をついた状態で、高貴な方の前に立ち上がるようなことはできなかつたそうです。着付けをする方は2名で、前の方を前衣紋者（まええもんじゃ）、後ろの方を後衣紋者（うしろえもんじゃ）と呼ぶそうです。今回の講義でも、着つける方はずっとその姿勢を保って着付けをされていました。実際に在校生の方にモデルになっていただき、講義を聞きながら、着つけていく過程をじっくり見せていただきました。講義では、「十二単のような伝統的な衣装が時代のニーズに対応しながら変化をして、振袖になるなど今日に至っている。韓国にも韓服がありますが、歴史を辿ってみると新たな発見があるかもしれません。」とのお話をいただき、文化を考える上で、大変有意義な講義となりました。

2回目となるミチュホル外国語高等学校からの生徒との交流活動は、今回もとても有意義なものとなりました。日比谷高校を訪れてくれたミチュホル外国語高等学校の生徒のみなさんと先生方、生徒を受け入れてくださったホストファミリーの方々、グローバル委員会や交流を支えてくれた生徒のみなさん、授業や部活動などにおいてご協力をいただいた先生方、さまざまな形で交流を支援してくださったみなさんのおかげで、充実した交流活動となりました。ファン教頭先生がレセプションでお話されていた、「世界が混沌していけばいくほど、このように隣国で絆を深めていくことは世界平和へのメッセージに

もなる」、という言葉が思い出されます。来年3月に、今度は日比谷高校からミチュホル外国語高等学校へ生徒が派遣されます。

◇ 東京大学本郷キャンパス G10 OB・OG による大学生交流ワークショップについて

平成29年卒業生で、第1回ポストン・ニューヨーク海外派遣研修生の一員であり、現東京大学生を中心に、日比谷高校出身の大学生たちによる交流イベントが東京大学本郷キャンパスで行われます。メインテーマは「海外研修における提言プレゼンテーションをより良いものとする」ということですが、大学でどのような学びが行われているかなどを知り、卒業後の進路を考える良い機会になります。

日時 平成30年10月21日(日) 午後1時から午後4時まで

場所 東京大学本郷キャンパス 情報学環オープンスタジオ

12時45分に東京大学本郷キャンパス赤門前に集合

募集対象 1、2学年生徒 (将来グローバルな分野で活躍したいと考えている生徒)

特に来年のポストン・ニューヨーク海外派遣研修への参加を希望している生徒。

募集人数 20名 (今年度のポストン・ニューヨーク研修派遣生徒を除く)

申し込み方法 英語科準備室前の参加申し込み票に記入する。先着20名。

※申し込み多数の場合は抽選になります。参加可能になった生徒には通知します。

締め切り 10月18日(木) 午後5時まで

本日18日締め切り